



クリスチャンパートナーズ

通信第 85 号

-
- | | |
|---|----------------------------------|
| ・発行日 / 2011 年 12 月 15 日 | ・発行所 / クリスチャンパートナーズ |
| ・事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2 - 7 - 63 - 1001 草野計雄方 | ・Tel / Fax 054-283-9317 |
| ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994 | ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp |
| | ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/ |
-

「アフリカを訪ねて」

理事長 木ノ内 一雄

9月12日から26日にかけて、アフリカのガーナ、ガンビア、セネガルの三カ国を訪問しました。今回の旅行の一番の目的はガーナのエイモス バンマリグ師を訪問することでした。同師は2004年に日本のアジア学院で学ばれ、帰国後、自分の村で幾つかのプロジェクトを立ち上げられています。クリスチャンパートナーズでは、長年に亘って同師のために何ができるかが話し合われて来ました。しかし、現地の実情が分からないままに、今迄以上の援助を行うことはできませんでした。このような状況を知ってパートナーズ インターナショナル アメリカ (Partners International USA) 代表、ジョン・ルイス氏から夫妻で予定しているアフリカ旅行に同行したらどうかとお誘いがありました。そして、それを受けることによって今回の旅行が実現しました。訪問した三カ国ではそれぞれ現地の宣教団体とPIUSAの西アフリカ地区の代表がわたしたちと行動を共にし、案内してくれました。



村の教会

ガーナは政治も比較的安定し、治安も良いと言われています。国は南北に大きく分けられ、北は南に比べると全ての面で遅れています。今回、訪問したのは北の方でした。首都アクラから飛行機でタマレまで行き、そこから車で北の国境近くの町に向かいました。その途中にワルワルという町があり、そこから街道を外れて悪路を2, 3時間行ったところにエイモス師が住むヤマという村がありました。途中、道の両側は見渡す限りの原野でした。出発が遅れたために、着いたのは予定の午前11時を大幅に遅れ1時半頃でした。朝早くからわたしたちの到着を待っていたとのことでした。



名誉村長となる儀式

到着と同時に教会に案内され、ドラムや歌、踊りと共に礼拝が始まり、礼拝を静かに守る日本とは大違いでした。

礼拝中の出入りも自由でした。わたしが説教し、エイモス師が通訳しました。驚いたことに、礼拝ではわたしが名誉村長となる儀式が行われ、その後、村の人たちはわたしをチーフ（長）と呼ぶようになりました。

礼拝が終わり、エイモス師が行っているプロジェクトを見学しました。最初に行ったのは農業訓練センターでした。できたばかりの建物の前で開所式が行われました。エイモス師はこのプロジェクトに力を入れており、アジア学院で学んだことが役に立っているとのことでした。研修生も何人が集まっています。建物の中にある広い研修室でプロジェクトの説明を受け、その後、アフリカ風カレーの昼食をとりました。

次に案内されたのはヤマ子供の家でした。昼でも薄暗い部屋で、7,8人の子が泊まれるとのことでしたが、古く汚れたマットが幾つかあるだけでした。夜はそれを敷いてその上に寝るのですが、上に掛けるものも蚊帳もなく、子供たちの置かれた状況に心が痛みました。黄熱病、コレラ、マラリヤといった熱帯地方特有の病気で死ぬ人も多く、抵抗力のない彼らが気がかりでした。そのような部屋がいくつかと炊事場がありましたが、炊事道具や食器など何もありませんでした。それにも拘らず、わたしたちが会った子供たちは一様に明るく、目がキラキラ輝いていて屈託がありませんでした。

施設を見学した後、チャーチ・プランティングの説明がありました。これはアフリカの多くの教会で進めている宣教活動の一環で、この教会でも二、三の近隣の村で教会を建てようとしていました。その方法は、先ず、宣教者が二人一組で村に入り、村長や長老と会って伝道のために家を訪問する許可を得ます。村の責任者は普通、例外なく許可を与えるそうです。外から人が入ることはその村の活性化につながるからです。その後、宣教者は村人の家を訪問しますが、その目的は平和の人（man of peace）を見つけることです。神は彼らが村に入る前からそのような人を用意されているといい、見つけると、その人の家で集会を始めるようになります。近隣の人たちが集まると家の教会になり、教会堂が建ちます。どの村もイスラムの影響を受けていて、その人たちの反対もあるようですが、殆どの場合、教会は村人と友好的な関係を築くことができると言います。今回、同行してくれた現地宣教団体の代表はパートナーズ インターナショナル アメリカを通してエイモス師を知っており、既に数回訪れていました。そして、エイモス師の進めるチャーチ・プランティングに関心を持ち、協力したいとのことでした。エイモス師と教会だけで重荷を負うのではなく、広い視野と経験に富む宣教団体と一緒に協力できるなら素晴らしいことだと思います。わたしたちもできたら彼らと協力して行きたいと思います。

ガーナだけでなくガンビア、セネガルでも感じましたが、町には小学校があっても、村では見かけなかったのが不思議でした。インドでは村で子供たちが木の下で先生を囲んで学んでいたのと対照的でした。この



エイモス師と一緒に



ヤマ子供の家の部屋



ヤマ子供の家

国の将来を担っていく子どもたちのために何が
できるのかと考えさせられました。

初めてのアフリカ。村に入るとどこでも沢山の
人たちが集まり、子どもたちが走って来ました。
きっと外から来たわたしたちが珍しいのでしょ
う。日本では水道や電気、ガスのない生活は考え
られません。しかし、ここではそれが現実でした。
村には井戸が一つしかなく、家は土壁が外と内と
を隔てているだけの土間の生活で、日没と共に寝、
夜明けと共に起きるのでしょうか。お風呂に入っ
ているのでしょうか。土で汚れたままの子も多く、
顔の皮膚がところどころ白っぽく変わってい
る子もいました。紙も鉛筆もなく本も見当た
りませんでした。食事は穀物を臼でつき、そ
の粉を練り、手でちぎって口にしていました。
村には医者も看護師もいませんでした。しか
し、電波塔と自家発電機があれば携帯電話で
話ができ、テレビも見られます。自転車があ
れば他の村に行くことができ、オートバイや
車も入って来るようになりました。より広い
世界を知った時、村人たちは自分たちの置か
れた状況をどのように思うのでしょうか。今日
の世界は人と人、町と村、国と国の格差がま
すます広がっていくばかりです。屈託のない彼
らの笑顔をいつまで見ることができるのでしょ
うか。彼らの生活を知ってしまった者は彼らの
ために何ができるのかを考えざるを得ません。

ともあれ、健康が守られ無事帰国できました。ルイス夫妻及び現地宣教団体の方々が色々
と気遣ってくれたおかげでした。欧米のアフリカ伝道には長い歴史があり、奥地にも宣教師のた
めの宿泊施設がありました。それらを利用できる人と一緒になければ、このような旅はできな
かったでしょう。

「百聞は一見に如かず」でした。しかし、同時にこのような短期の旅行では限界もあります。
読んでいて気が付かれたことがあればご指摘ください。アフリカに行ってみたくと思われる方
がおられれば何かお手伝いできることがあるかも知れません。また、既に行かれたことのある
方とは一緒に何ができるかを考えたいと思っています。是非ご連絡ください。メールアドレス
は Kazuo.kinouchi@gmail.com です。

付記...クリスチャン パートナーズのホームページで今回の旅の動画とスライドを見ることが
出来ます。

<https://sites.google.com/site/rijikai2010/>

また、同行したルイス氏のブログがありますのでご覧下さい。

<http://jonlewisblogs.blogspot.com/>



ヤマ子供の家の前で子どもたちと
ルイス夫人

高橋めぐみ宣教師 理事会を訪問

宣教報告のため帰国中の高橋宣教師から、7月25日理事会後に、西カリマンタンでの活動状況をお話いただきました。その要約をお知らせいたします。

神学校での授業のほかに、高橋先生が今力を入れておられるのは、中高生のための寮の運営です。西カリマンタンの奥地では道路もなく、川を交通手段に用いているところが多く、教育を受けたいと思うダヤク族の子どもたちは、親元を離れて学校のある町に移り住まないと通うことができません。高橋宣教師を送り出している宣教団体の支援で、中高生のために寮を方々で経営し、神学校の卒業生を寮監として住まわせて、キリスト教信仰に基づいた生活指導を行っているとのことでした。

すでに教会のあるところに寮を開く場合もあり、中高生は自分たちで野菜を育て、自炊をしながら、学校に通っていますが、卒業試験などで成績のいい生徒を輩出しているそうです。寮監として奉仕する人々の働き成果でしょう。また、寮を中心に伝道活動も行って、人々のキリスト教についての理解を深め、教会設 夕食を共にした高橋宣教師（左端）と理事たち



立へと進展していくこともあります。

ダヤク族の人々にはキリスト教徒が多いのですが、学校へ行くため寄宿する町の中の親戚縁者にはイスラムの家族が多く、生活を共にしているうち、その影響を受けることもあり、そのためにもキリスト教教育を与えられる寮の運営が重要になってきます。

西カリマンタンの中等教育では教師の資質も問題の一つのようです。給料が低く辺鄙な土地への赴任は、当然ながら優秀な人材を得にくくしています。

クリスチャンパートナーズで奨学金をお送りしている中高生の中にも寮生がいますし、寮から巣立って大学に入っている奨学生もいます。

高橋先生がお持ちくださった奨学生の挨拶文などを、随時ご紹介してまいります。



ダミさんはタンジュンブラ大学教育学部でインドネシア文学を学んでいます。
「通信第78号」参照）

「私は今、第2学年の後期に進んでいます。おかげさまで3.5という高得点を得ることができました。これはすべて、神様のお助けと、皆様のお祈りと学費支援のおかげだと思います。皆様に恩返しはできませんが、一生懸命勉強して無事卒業ができますように努力します。これからもお祈りのご支援をお願いいたします。皆様の上に神様のお守りがいつもありますように。

ダミより

【理事会報告】第170回理事会は2011年10月31日（月）一ツ橋学士会館で開催。2011年7・8・9月度会計報告承認。SAC里子から2回目の手紙（マレーシアで英文訳）到着、里親に配布。東日本大震災支援金の最終会計報告と配布先決定。理事長のアフリカ視察旅行報告。ガーナ支援の将来について今後協議する。2010年度決算報告と予算案は、8月5日発行の「通信」第84号に追加転載済。「通信」第85号は理事長のアフリカ視察旅行報告と、高橋めぐみ宣教師関係の奨学生の紹介などで年末までに発行予定。

第171回理事会は2012年1月23日（月）一ツ橋学士会館で開催予定。

編集後記 東日本大震災には多額の支援金でご協力いただき、ありがとうございました。残額はクラッシュ・ジャパンと日本基督教団にお送りして終了いたしましたので、感謝をもってご報告いたします。

理事長のアフリカ視察旅行記を年内にお送りできて安堵しております。向寒の折、くれぐれもお大事に。

恵み豊かなクリスマスを迎え、新しい年も健康でお過ごしになりますように。 鳥海百合子